

第2課

❖❖ 出会う(2) ❖❖

スキット

のぞみとサイダの会話はまだ続いていますー

Nozomi (N) : Huko Tanzania, **unatoka** sehemu gani ?

Saida (S) : **Natoka** Dar es Salaam.

N : Sasa **unakaa** wapi ?

S : **Nakaa** Mino.

N : Hivyo.

Ah, kengele imelia.

Nakwenda darasani.

Tutaonana.

S : Sawa, **tutaonana** tukijaaliwa.

❖
のぞみ (N) : タンザニアのどちらから来たんですか？

Tanzania no dochira kara kitandesu ka ?

サイダ (S) : ダルエスサラームです。

Dar es Salaam desu.

N : 今はどちらに住んでいるんですか？

Ima wa dochira ni sundeirundesu ka ?

S : 箕面に住んでいます。

Mino ni sundeimasu.

N : そうですか。

Soudesuka.

あ、チャイムが鳴りました。

A, chaimu ga narimashita.

授業に行きません。

Jugyou ni ikimasu.

また会いましょう。

Mata aimashou.

S : はい、また今度。

Hai, mata kondo.

❖

解 説

第2課では、次の項目について学びます。

- ◆ 動詞シルシ形
- ◆ [動詞シルシ形] スル・シタ式(1)
 - ◇ 人の主語のシルシ
 - ◇ 時間のシルシ



◆ 動詞シルシ形

スキットの中に、このような形の語が出てきましたね。

unatoka	natoka
unakaa	nakaa
nakwenda	tutaonana

第1課のスキットにも出ていました。

najua	naitwa
unaitwaje	nimefurahi

この中の幾つかについて、意味を見てみると、このようになっています。

unakaa ~	〈あなたは <u>~</u> に住んでいます〉
tutaonana	〈また会いましょう〉 (<u>私たちは会いましょう</u>)
naitwa ~	〈私は <u>~</u> といっています〉 (<u>私は~と呼ばれています</u>)

スワヒリ語の動詞は、いわば辞書の見出し語になるような動詞の本体(動詞本体)だけで現われることがあまりありません。通常、幾つかのシルシを伴って現われます。このように、動詞本体にシルシの付く形を、ここでは動詞シルシ形と呼びます。

一般的に、動詞本体の前には4つの枠A, B, C, Dが、後ろには1つの枠Eがあります。それぞれの枠に、様々なシルシが入ります。

▽ 動詞シルシ形

A	-	B	-	C	-	D	+	[動詞本体]	-	E
---	---	---	---	---	---	---	---	--------	---	---

◆ [動詞シルシ形] スル・シタ式(1)

この課で学ぶのは、動詞シルシ形の中のひとつ、スル・シタ式です。スル・シタ式は、事実を「～する」、「～した」と述べる言い方です。

[動詞シルシ形]
スル・シタ式
「～する」「～した」

仕組みを見てみますと、まず動詞本体の前の A の枠には「私は」、「あなたは」など、主語を表わすシルシ(主語のシルシ)が入ります。続く B の枠には現在、過去などの時間を表わすシルシ(時間のシルシ)が入ります。

C の枠は、スル・シタ式では何も入りません。D の枠はここでは出てきませんので、後の課で説明します。そして動詞本体の E の枠には、「Unaitwaje」の例のように、疑問のシルシ「-je」が入ります。

▽ [動詞シルシ形] スル・シタ式(1)

主語の シルシ	-	時間の シルシ	-	D	+	[動詞本体]	[- E]
------------	---	------------	---	---	---	--------	-------

‘unakaa ~’ (あなたは～に住んでいます) を分解してみましょう。このようになります。

- ‘unakaa ~’ (あなたは～に住んでいます)

u	-	na	+	[kaa]
---	---	----	---	-------

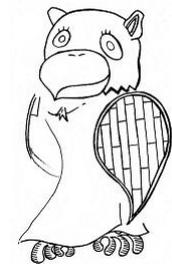
あなたは (現在) 住む

‘tutaonana’ (私たちは会いましょう) も分解してみましょう。このようになります。

- ‘tutaonana’ (私たちは会いましょう)

tu	-	ta	+	[onana]
----	---	----	---	---------

私たちは (未来) 会う



◇ 人の主語のシルシ

さあ、主語のシルシについて見ておきましょう。人の主語のシルシはこうなっています。

▽ 人の主語のシルシ

(～する/～ある)

[1 人称単数]	(mimi)	ni -	〈私は—〉
[1 人称複数]	(sisi)	tu -	〈私たちは—〉
[2 人称単数]	(wewe)	u -	〈あなたは—〉
[2 人称複数]	(nyinyi)	m -	〈あなたたちは—〉
[3 人称単数]	(yeye)	a -	〈彼(女)は—〉
	(Saida)		〈サイダは—〉
[3 人称複数]	(wao)	wa -	〈彼(女)たちは—〉
	(wazee)		〈親たちは—〉

※ ‘mimi’, ‘sisi’ など()内の語は、文脈により明確な場合、言わないのが普通である。

例を見ておきましょう。

- [1 人称単数]
(mimi) **Nin**akaa Janani. 〈私は日本に住んでいます。〉
- [1 人称複数]
(sisi) **Tun**akaa Janani. 〈私たちは日本に住んでいます。〉

- [2 人称単数]
(wewe) **Un**akaa Janani. 〈あなたは日本に住んでいます。〉
- [2 人称複数]
(nyinyi) **Mn**akaa Janani. 〈あなたたちは日本に住んでいます。〉
- [3 人称単数]
(yeye) **An**akaa Janani. 〈彼(女)は日本に住んでいます。〉
(Saida) **An**akaa Janani. 〈サイダは日本に住んでいます。〉
- [3 人称複数]
(wao) **Wan**akaa Janani. 〈彼(女)たちは日本に住んでいます。〉
(wazee) **Wan**akaa Janani. 〈親たちは日本に住んでいます。〉
(+ kaa’〈住む〉)

動詞シルシ形スル・シタ式の「～する」、「～した」の表現では、常に動詞に主語が明示されます。主語をあいまいにしがちな日本語とは対照的ですね。

◇ 時間のシルシ

時間のシルシについても見ておきましょう。時間のシルシはこうになっています。

▽ 時間のシルシ

- [現在] **- na -**
- [過去] **- li -**
- [未来] **- ta -**
- [完了] **- me -**

例を見ておきましょう。

[現在] **Ninasoma** kitabu.
〈私は本を**読んでいる**。〉

[過去] **Nilisoma** kitabu.
〈私は本を**読んだ**。〉

[未来] **Nitasoma** kitabu.
〈私は本を**読むだろう**。〉

[完了] **Nimesoma** kitabu.
〈私は本を**読んだ(読み終えた)**。〉

(‘+ soma’ 読む)

naitwa = na +[itwa]

< n'na +[itwa]

< ni-na +[itwa]

この主語のシルシ 1 人称単数の ‘ni-’ と時間のシルシ現在の ‘-na-’ がくっついて ‘na-’ となる現象はよく出てきますので、覚えておいて下さいね。



前に見た ‘naitwa ~’ 〈私は～と呼ばれています〉の ‘na-’ は、ここでは主語のシルシ 1 人称単数の ‘ni-’ と、時間のシルシ現在の ‘-na-’ がくっついてできたものです。よって、‘naitwa’ の元は、‘ninaitwa’ という形です。

○ ‘naitwa ~’ 〈私は～と呼ばれています〉

ni	-	na	+	[itwa]
----	---	----	---	--------

私は (現在) 呼ばれる

‘nina-’ の形から ‘ni’ の ‘i’ が消えて ‘nna-’ となり、この ‘nna-’ が短縮されて、‘na-’ となるのです。

